

## 1 京都に求められる役割

京都ならではの歴史や自然・文化を守り、創造し未来へ引き継ぐという役割  
⇒都市の品格と魅力を高めていくため、様々な取組の更なる推進が必要

## 2 新たな財源確保の必要性・負担の在り方

入洛客の増加等により、受入環境整備や交通渋滞対策などの課題  
⇒市民生活にまで影響を及ぼすものも



行政サービスの一層の充実を図るため、受益と負担の関係から、入洛客にも一定の負担を求めることには合理性がある

## 3 新たな財源の使途

**市民及び入洛客双方の満足度を高めるような施策**

（観光受入環境の整備のほか、文化の振興、景観の保全・再生、歩くまち・京都の推進 など）

## 4 新たな税の具体的な検討

① 駐車場への駐車に対する課税

- 対象施設：駐車場の把握や対象区域の特定などが非常に困難
- 納税者：入洛客だけでなく、多くの市民や事業者の方々も対象となる

② 宿泊に対する課税

- 対象施設・納税者：宿泊施設及び宿泊客の把握が可能で、実現性が高い

③ 別荘の所有に対する課税

- 対象施設：別荘に該当するものの定義や別荘の把握が非常に困難

駐車場への駐車に対する課税(①)及び別荘の所有に対する課税(③)は引き続き検討

**宿泊に対する課税(②)を導入すべき**

【制度イメージ】

- ・対象施設：宿泊施設の形態(ホテル・旅館・簡易宿所(民泊を含む))にかかわらず対象
- ・納税者：宿泊料金にかかわらず、全ての宿泊客を対象(高額な宿泊料金の宿泊にはその負担能力に見合った税額に)
- ・軽減措置：修学旅行生は税を免除